

▶ Interview : 最新自動化設備を導入した板金加工業



本社の宮崎です。

制御盤などの精密板金加工やプレス加工、組立加工を行う株式会社行田製作所様を取材しました。

人手不足に対応するために、積極的に最新の自動化設備を導入し、工場の省力化を進めています。

2か月に渡って行田製作所様をご紹介しますが、前編である今月号は、「自動化設備導入時の苦労やポイント、効果などについて」です。後編では行田製作所様が開発した「サンダーロボ」です。お楽しみに！

▶ 株式会社行田製作所様(群馬県) 前編

宮崎: 自動化のきっかけや、「ここを自動化しよう」と最初に決断した理由は何ですか？

行田様: 以前に抜き加工機を導入し、夜間運転が充実した結果、その分曲げ工程に物が多く流れてくるようになり、そこがボトルネックになってしまいました。そのため次に曲げ工程を安定させたいと考え、特にリピート品に関しては、ロボットでの自動化を決断しました。

宮崎: ロボットを導入した際、現場からはどんな反応がありましたか？

行田様: 「曲げるためのデータを作るのが面倒」「手で曲げた方が早い」という声は非常に多かったです。ただし、慣れさせるしかないという思いから、現場には「汎用機はもう使わない」「1個の加工でもロボットを使う」という徹底した指示を出しました。

宮崎: 自動化によってどのような効果がありましたか？

行田様: 夜間運転により、溶接工程まであつという間にモノが流れようになったり、ロボットが角度や寸法をきっちり抑えるため、後工程である溶接も楽になったという声もあります。



自動化された工場



導入したベンディングロボ

宮崎: 現場の働き方や若手社員の意識は変わりましたか？

行田様: ゲーム感覚でロボットのシミュレーションを行えるため、若手が取り組みやすい環境になりました。その他にも自動化職人を育てたり、空いた社員が試作品の開発・より手の込んだものを試行錯誤する時間を確保できたりしました。

結果として、自動化が会社全体での技術の幅を広げる一つのきっかけとなっています。

宮崎: 今後、自動化したい工程や理想像はありますか？

行田様: 今後も曲げ工程の自動化は進めていきます。また、今導入しているロボットよりも少し小さいものの導入を検討し、数の少ないものや「1セットだけやりたい」といったニーズにも、段取りをしておけば対応できる体制を目指しています。工場全体の100%自動化は難しいですが、集中管理センターの設置やAGV(無人搬送車)の導入により、工場全体の流れを最適化していきたいです。



会社名:株式会社行田製作所
住所:群馬県高崎市吉井町矢田693-1
電話番号:027-329-5445
会社HP:<https://gyoda.info/>

アマダ様による行田製作所様
工場の曲げ工程自動化



Instagram



サンダーロボのチラシ



子会社の中古パレット販売・
レンタルを行う会社



株式会社ゼロプラス
ZEROPLUS Co.,Ltd

当社HP	カタログ補助金.com	CO2比較.com	Youtube	Instagram	公式LINE
 ゼロプラスの歴史や理念、事業内容をご紹介！	 省力化補助金(カタログ注文型)対象設備を簡単検索！	 脱炭素に関する最新情報を随時公開！	 当社の会社紹介や脱炭素セミナーを動画でチェック！	 ゼロプラスの雰囲気や従業員たちの楽しい日常！	大場社長  ゼロプラス  辅助金・脱炭素などのお役立ち情報を配信！

問い合わせ先
〒 664-0858
兵庫県伊丹市西台1-5-7 2F
TEL 072-764-5340
FAX 03-6800-5265
Mail info@zeroplus-consul.co.jp

▶ 脱炭素ニュース: SBTの最新情報(今年1年の振り返り)

2025年、**Science Based Targets initiative(SBTi)**の認証企業数は累計9,500社を突破。日本国内では2,168社、そのうち中小企業版は1,720社に達し、2025年は過去最高の認証伸び率を記録しています。

トランプ政権によるパリ協定脱退の動きや、SNS・ニュースでは脱炭素への否定的な声も目立ちますが、企業はサステナビリティ投資を止めても、遅らせてもいません。むしろ水面下では着実に進んでいます。いま動かないことこそが、競争力低下という最大のリスクになる局面に入っています。

国内SBT認定企業数の推移



※1: SBTiが提示する目標への具体的な數字計画の未提出に伴う認証の一時保留。

出所: Science Based Targetsホームページ Companies Take Action(<http://sciencebasedtargets.org/companies-taking-action/>)より作成

SBTiラウンドアップ



承認された目標を持つ企業9,575社以上



目標とコミットメントを持つ12,185社以上の企業



騒ぎにもかかわらず、企業は持続可能性に関して後退していない
トレリス | 11月19日
「米国が世界的な気候変動対策から撤退するにつれ、ネガティブな側面ばかりに注目しがちです。しかし、ほとんどの企業や投資家は、持続可能性への取り組みを維持するだけなく、加速させています。」

▶ 省力化補助金(一般型)ご紹介

既存事業の製造省力化で応募できる使いやすい補助金です。完全オーダーメイドの設備はもちろん、汎用設備の組み合わせや、ベンダーの「角度センサー」、NC旋盤の「チップコンベア」のようなオプションを付けて単体設備でも採択されています。当社支援企業様の3次採択率はなんと98%！5次公募締め切りは、2月下旬。今年度最後の公募と思われますので、ぜひ営業にお声がけくださいませ。

▶ 代表から一言

ゼロプラスタイムズをお読みの皆様、新年あけましておめでとうございます。
新年にあたり今年の経営環境を考えてみます。コロナ禍を経て30数年振りにデフレから通常経済に戻りつつあります。ようやく上がってきた物価や賃金に引き続き昨年末からは金利が上がり始めました。現役経営者が初めて直面する金利がある世界。これまでの常識は通用しません。ゼロ金利ではお金の価値は下がらないので、たっぷり借りて現金を保有することが正義でした。

しかし金利があるとお金は時間とともに目減ります。つまりお金は適切に投資に回して、インフレ率+金利を上回るビジネスを実行することが必須となります。今まであまり考えた事のなかった、時間と金利に対する考え方をできるだけ早くマスターする必要がありそうです。今年も『中小企業の成長に貢献することが我々の存在意義だ！』という経営理念のもと頑張っていきますので、よろしくお願ひ致します。

2026年元旦 大場正樹

